

Interview

情報の壁をなくし、拠点を超えて一つになる

—— システム共有が守る、スタッフの笑顔と連携。

舞鶴市内の企業労務を支えるA社会保険労務士法人のコンサルタント、Tさん。

今回は、舞鶴市中小企業デジタルツール導入支援事業補助金を活用し、顧客管理と請求業務を連携させることで「業務の正確性」と「柔軟な働き方」を両立された取組についてお話を伺いました。

組織の変化と直面した課題

社会保険の手続きや給与計算など、土業の業務は非常に緻密で正確性を要します。これまでは情報の引き継ぎが「口頭」ベースで行われることもあり、属人化や伝達ミスリスクを抱えていました。

また、スタッフの多くが女性という組織構成。離れた拠点間でもリアルタイムで進捗を共有し、家庭の事情などによる急な休みが発生しても、他のスタッフが即座にフォローし合える「情報の透明化」が、組織の継続性のために不可欠となっていました。

ツール連携で実現する「確実な事務基盤」

今回の補助事業では、顧客管理システム（kintone）と会計ソフト（マネーフォワード）をAPI連携させ、一貫通貫の管理体制を構築しました。

このシステム統合により、複雑な手続きの進捗状況や売上管理データをリアルタイムで共有。拠点に関わらず、誰もが最新の情報を正確に把握できるようになりました。これまで人の目に頼っていた確認作業をデジタル化することで、処理漏れや伝達の齟齬を未然に防ぎ、事務所全体の信頼性をさらに強固なものとしています。

効率化が創り出す「対話へのゆとり」

具体的な数値としても、1件あたりの事務作業時間は10分から5分へと、約50%の削減を実現。しかし、何より嬉しい変化は、現場のスタッフに「心理的なゆとり」が生まれたことです。事務作業に追われる時間が減った分、顧問先様からの「勤怠管理システムの導入」や「法改正対応」といった高度な相談にじっくりと時間を割けるようになりました。このゆとりこそが、企業の良きパートナーとして寄り添い続けるための「信頼の土台」になると考えています。

さらなる高度化へ向けた基盤整備

今後は情報の完全集約を目指し、定型業務の自動化をさらに進める方針です。デジタル基盤の強化を通じて、職員がより高度な専門業務に専念できる環境を整備。地域企業の成長を力強く支えるパートナーとして、さらなる体制構築を追求していきます。



PROFILE



A社会保険労務士法人

舞鶴事務所：
舞鶴市伊佐津474-3



舞鶴市内を中心に、企業の労務管理や助成金申請、DX推進を支援。「システム共有」によって属人化を排除し、女性が長く活躍できる柔軟な職場環境づくりを実践している。

